

フリースタイルな僧侶たち

55

仏教の未来に
チャレンジし続けて

10周年

Since
2009 August





学びと実践の両足で歩む仏教登山

国土の7割以上が山地の日本。標高3千メートルを超える山は20以上、2千メートルを超える山は600以上、千メートルを超える山は無数にある。そのなかで最高峰の山といえば、もちろん3776メートルの富士山だ。最近では、登山道や山小屋が整備され、便利な装備も手に入れやすく、いきなり登頂できる人も多い。もちろん体力的にはしんどいし、それなりの達成感もあるだろう。山頂からの景色も申し分なく綺麗だ。しかし、本来は山登りの経験を積み、山についてよく学んだ上で挑戦するべき山であり、登山の旨味を

半分も味わえないと感じるこの登山は「なんとなく登山」のようないきなり登頂してはならない。仏教理解への道のりも、山登りに例えられる。仏教の教えについて学ぶことで知識を蓄え、生活のなかで一つひとつ実践して経験を積む。学びと実践の両足が一步步つ歩むように、実践から新たな学びの必要性が生まれ、学びは実践により深められることで仏教理解の実感が近づいてくる。だが最近では、本屋には先人による仏教理解の知識が並び、SNSには現在の仏教者の経験がリアルタイムに流れる。仏教が身近になった反面、

それらを見ているだけで、一気に山頂にたどり着いたかのような、学びと実践を身につけたかのような、「なんとなく仏教理解」に陥る危険性も高い。登頂までの足跡が全く同じになることがないように、見聞きすることはあくまで他人の登山スタイル。道しるべになったとしても、自分自身で歩まなければ仏教理解の道のりは見えてこないのではないか。

さあ、一緒に山に登ろう！頼れる仲間が集うフリースタイルな僧侶たちというパーティーで。フリースタイルな僧侶たち

May Buddha Bless You!



スタート前の、悶々

加賀 まずは池口さんに改めて、フリスタを立ち上げられるまでのことをお聞きしたいなど。どういう状況や思いのなかで、フリスタを始められたんですか？池口 一言でいうと、閉塞感です。10年前は、今では考えられないぐらい、社会のなかに仏教への不信感があつて。この不信感の原因はおそらく二つあります。一つには1995年のオウム真理教によるサリン事件。この時、宗教というものは、首都圏の人々の身体の一部となっている地下鉄に、死に至る毒ガスを撒くほどの狂気と隣り合わせであることを、痛切に知ったわけです。もう一つ、オウム以前

から根強くあるのは、太平洋戦争中に日本の仏教界がこぞって戦争を賛美したことへのトラウマです。戦後の教育で育った私たちは、仏教をはじめとした日本の精神文化に対して、心を閉ざしていることが多かった。そこにサリン事件が追い打ちをかけたんですね。そんな状況に加え、バブル崩壊後の不況もあってお寺つき合いもコストカットの対象になり、直接火葬場に向かう「直葬」や、葬儀当日に満中陰を行うという、そんな得体のしれない趨勢にお寺の内側はびくびくしていました。加賀 なるほど。なんとなく宗教は怖いものだから深く関わらない方がいい、という認識を持たれてしまったのかもかもしれません。

左／かが・しゅんゆう

1986年生まれ。真言宗御室派僧侶。大阪ミナミ・三津寺副住職。2013年から京都仁和寺において1年間の仏道修行を勤めた後、自坊に帰る。2018年4月よりフリースタイルな僧侶たちの代表を務める。趣味はカメラ。ほしいものは暗室。

中／いけぐち・りゅうほう

1980年生まれ。浄土宗僧侶。龍岸寺住職。初代フリースタイルな僧侶たち代表(2009年8月～2015年3月)。念仏フェス「十夜祭」「超十夜祭」や浄土系アイドル「てら＊ばるむす」運営などに携わる。http://ryuganji.jp

右／わかばやし・ただと

1982年生まれ。浄土真宗本願寺派僧侶。大阪市東淀川区光照寺衆徒。第2代フリースタイルな僧侶たち代表(2015年4月～2018年3月)。現在、編集部として筆をとる傍ら「はんにゃしんぎょう」を唱導する会など、イベントも担当。

歴代代表が“特濃”で語る「フリースタイルな僧侶たち」の仏教

令和元年8月1日、フリースタイルな僧侶たち(以下「フリスタ」)はおかげさまで、発足から10周年を迎えました。「仏教を身近に、日常に。そして、あなたの生きる力に」。この思いのもと、宗派を超えて僧侶が集まり、フリーペーパーの発行やウェブでの発信、イベントの実施など、型にとらわれずに活動してきたフリスタ。記念号にあたる今号の特集では、フリスタを発足した池口龍法と、その後を継いで前代表を務めた若林唯人に、現代表の加賀俊裕がインタビューし、フリスタの10年を振り返りつつ、フリスタの今後についても語ります！

photography: shimizu kana



記念すべき創刊号。「次の時代の仏教のために」。池口さんの発刊への思いが全ページに詰まっている。



若林さんが初めて編集した第19号。お腹を痛めて産んだ労作の特集は「お坊さんへの質問100に答える」。

んね。日常のなかで語られることも減り、次第にお仏事の優先順位も下がっていったと。

池口 フリスタを始めた時点で、今指摘したような状況がはっきりと見えていたわけではないけれど、とにかく仏教への不信感が強くおおっていました。ただ、私のなかでは、大学時代にクラシック音楽に傾倒する過程でヨーロッパの文化全般をいろいろと学んでいて、その魅力にどんどんハマっていった一方で、仏教にも似てるところがあるなあという感じでした。まあ、人間のやることだから、文化の一つひとつの要素を見ていいたら、洋の東西に関わりなく、できることは大して変わらないんです。ただし、例えば、磔刑に処せられて三日後に復活したキリストと、穏やかに涅槃に入ったブツダでは、どうし

てもその後の人たちが肉付けしていく物語の筋書きが変わってきます。では、私が現代の不信感を払拭して、仏教を生きる糧にしてもらえるために何をすべきかという、自分と同じ時代の空気を吸って育ってきた人たちと対話するなかで、仏教の物語をさらに魅力的に加筆していくことだろうと。それが、お寺に生まれ育って、大学でも仏教を学んだ仏縁を受け止めて、この世を生きる意味だろうと。

その覚悟が決まってきたのがフリスタを始める1、2年前ぐらいです。ヒントにしたのは、意外かもしれませんが、新宗教の布教活動でした。当時は知恩院に通勤するために毎朝京都の四条大橋を渡ってたんですけど、いつも「目覚めよ」という冊子を配るエホバの証人の方がいまして。ほぼすべての人は警戒し

てスルーしてましたけど、めげずにやりぬく努力はすごいなと。だから、負けないぐらい努力しようと考え、無料で手に取ってもらえるフリーペーパーを発行することにしました。それが10年前です。でも、どんなコンテンツが誰に刺さるかも分からないし、アドバイスしてくれる人もほとんどいませんでした。今のフリスタとは違ってもっとジャーナリズム的なものを目指してたので、「Newsweek」を

横に置きながら作ってましたね。**若林** え、それ、初耳です(笑)。そういうえば、ここまでのお話も、創刊号のノリですね。**加賀** わかる気がします(笑)。創刊後の反応はどうでしたか？**池口** あんなに大騒ぎになるとは思ってもいなくて。毎週メディアから何本も取材を受けました。閉鎖的なお寺の世界に風

穴を開けた、というインパクトがあつたようです。メディアで配信されると、草の根的に頑張っているお坊さんたちも訪ねて来てくれました。

きっかけは、失恋

池口 スタッフが増えて少し余裕ができて、2012年から「経典をナナメから読む会」(以下「ナナメから読む会」というイベントを始められました。ここでようやく、私がやりたかった「仏教を現代の人と話し合う場」ができた。これは大きかったですね。サブタイトルにもある通り、「ナナメから読む会」は失恋がきっかけで始まったイベントです。当時スタッフだった、ダライ・ラマ法王の研究をしている辻村優英さんが失

仏教の物語を、さらに魅力的に加筆していくこと
私がこの世を生きる意味ですね(池口)

苦しみや悩みが和らぐような仏教の言葉を紡げたら
慈悲を意識していましたね(若林)

恋をして。事務所ではしゃべっていたら、「失恋した時に、経典の言葉って効くんですかね？」と質問されたんですが、すぐに答えられなかったんです。それで、「(最古の経典である)『スッタニパータ』から、一緒に読んでいこうか」という話になって。

加賀 失恋の解決策として、「一緒に経典を読んでいこう」という発想になるのって、すごいですよ。ものすごく仏教好きというか、仏教オタクというか。**池口** 失恋のどん底にある時に坐禅したら、心の傷が増幅されて脳裏をめぐるばかりで、苦しみの解決にならない——当時の私の仏教観は恥ずかしながらせいぜいその程度でした。今なら、怒りが収まらない時には慈悲の観法(慈愍観)をやるというような、坐禅中のテクニカルな部分も多少わかりますけどね。ともあれ、「ナナメから読む会」では、辻村さんと、そして10人ほどの参加者と対話しながら一緒に経典を読んで、各宗派の教義などに気にせず、感じるままに一つひとつの言葉を味わって

たを知ったんですか？

若林 僕がフリスタを知ったのは、2011年の夏に朝日新聞のフロントランナーに池口さんがドーンと載った記事でした。さつき池口さんも言っていたけど、閉塞感を感じていたのは同じで。檀家さんの子どもさん・お孫さんが、これまでと同様にお寺と関係を持ってくださることとは、だんだん期待できなくなってきたと、子どもの頃から肌で感じていたんです。だから、若い人たちにとって仏教が身近なものとなるよう行動しているお坊さんたちって、どんな人なのか会ってみたくなくて。悩みながらも思い切って申し込んで、いざ行ってみると、参加者10人のうち、僕以外の9人はお坊さんではなく、同世代の若い方たちでした。若い人が仏教を学びに来られていることが、すごく新鮮で。だって、お寺に仏教の話聞きに来られるのは、ほぼ高齢の檀家さんだけだし、若い人がいても勉強のために来てるお坊さんぐらいだから。「この魅力は何なんだろう」と思っ

て、2012年の2月から毎月「ナナメから読む会」に参加したんです。そうしたら6月に「フリーペーパーの輪番編集長をしてみないか」と言われて。第19号の輪番編集長として寄稿した

後ぐらいから、スタッフとして加わりました。その後、事務仕事を少しお手伝いするようになったり、「アラサー僧侶とゆるーく話す会」というイベントを主催するようになったり。ななやかんやで今に到る感じですよ。**代表の交代**
加賀 池口さんは5年8か月、代表を務められて、2015年の4月に若林さんに代表を交代されましたね。**池口** 40代、50代になっても「フリースタイル」って言い続けるのは、ちょっと違うかなあ」と初期の頃から思っています。住職に就任したこともあってバトンを渡しました。

加賀 終わらせるのではなくて、引き継いでくれる人がいるならそうしたいなという感じだったんですね。**若林** いよいよ辞められるという話になった時に、スタッフで話し合っ「やっぱりフリスタを終わらせるのはもったいない」と。それで、古参だった僕が代表をさせてもらうことになりました。

加賀 どうでしたか？ 池口さんの後を継がれて、大変だったと思うんですが。**若林** 大変でした(笑)。「ある





べき代表像」を想定してとらわれてしまつて、至らない自分を責めることもあったり、シンブルに代表の仕事もキャバオーバーだったけど、足りない部分はみんなに補ってもらいながら、なんとか頑張つてこれて。いやいや、バトンタッチまで漕ぎ着けられて、改めてよかった。

加賀 若林さんが代表の時に、意識されていたのはどんなことだったんですか？

若林 やっぱ「慈悲」ですね。フリスタのスタッフに宗教学の研究者で小田雄一さんという方がいたんですが、フリスタに関わり始めた当初から、彼は親身にいろいろとアドバイスをくれ

て。例えば、「僕たちがミュージシャンに求めるものは、うまい演技でも笑える小話でもなくて、いい音楽を作ってもらうことであると同じように、僕たちが仏教に求めているのは、仏教ですよ」という言葉だったり、他にも「悩んでいる人は、まずはぶつ続けて話を聞いてほしいんですよ。世の中には悩んでいる人は山ほどいる。悩みにはグライダーションがあつて、お坊さんにも対応できる悩みもあると思う。慈悲こそ、宗教者の本質的な仕事じゃないですか」と言つてくれたり。「アラサー僧侶とゆるく話す会」はもちろん、誌面の編集でも、苦しみや

悩みが少しでも和らぐような仏教の言葉を紡いだらと、毎号努めていました。本当にささやかなことだけど、自分にできることを地道にしていましたね。

加賀 求められている仏教とは何か。もう少し具体的に言えば、それは「慈悲」なのだなと思ひました。若林さんが仏教のなかで重きを置かれてくることのルーツは、ここにあつたんですか。

若林 そうですね。彼のおかげです。ところで、僕が代表の時は特にフリーパーの編集でエネルギーを使い切つてしまつて、新しいことをする余裕まで残つてなかつたけど、加賀さんが来てくれて、「ブツダニア」

を率いてくれるようになったのはすごく大きかったです。加賀さんがフリスタに来てくれたのは、僕が代表になつた年でした。

加賀 うちの地元では、夏の地藏盆の時期に道頓堀にかかる橋の上で盛大に護摩を焚く法要があるんですが、そこに参加していた父（三津寺住職）から「面白いお坊さんが来てたで」と聞いたんです。それが池口さんなんですけど、その時にお話をさせてもらつたら、池口さんに「何かやりたいの？ フリスタに来る？」みたいな感じで言われました（笑）。

池口 なんか、悪徳ブローカーみたいな言い方（笑）。

加賀 すいません（笑）。その時はもうフリスタの代表を交代された後だったので、若林さんをご紹介いただいたんです。若林 池口さんと加賀さんと食事をしましたね。フリスタに来てみて、どんな印象でしたか？

加賀 仏教について真剣に語る同世代のお坊さんがこんなにいるんだというのが、衝撃でした。ミーティングの時、いつも熱い仏教トークになっていたじゃないですか。宗派の違いや、それぞれが大切にしている教えをリアルに感じたり。あれが楽しかったですね。

若林 うんうん。あの時間は、すごく、いいですよ。

日常に、仏教を

若林 僕が3年間代表を務めた後、後任として継いでくれて、逆に今、加賀さんが代表になつて大事にしていることや、これからこうしていこうと思つてることは？

加賀 「日常のなかで、仏教を生きる」ということをテーマにしたいなと思つています。

若林 いいですね。仏教の眼で日常を捉え直したり、まさに「日常のなかで仏教を生きる」ところに仏教の醍醐味があると思つし、すごく大事なことです。

ただ、数十年ほど前までは、各家庭にお仏壇があつて、朝夕に手を合わせて生活するという光景が当たり前だった。お仏壇をはじめ、頂き物はもちろん、通知表まで、まずはお仏壇にお供えしたりと、それこそお仏壇を中心として、家庭の日常生活のなかに仏教があつただろうなと思ひます。だけど今の、特に若い世代の方には、この頃と同じような「日常の仏教」は難しいでしょうね。

加賀 そうですね。だから、グッズ開発も大事なことでなと思つているんです。フェリシモおてらぶさんと一緒に仏教グッズの開発をしています。身近に置きたくなる日用品などを通して、仏教を「身につける」ことから、仏教を日常に落とし込むこともできると思うので。けどもちろん、そこに止まらず、日常のなかで仏教を実践していただくために、「ブツダニア」と「サークル」を充実させていきたいなと思つています。仏教は「僧侶が実践するもの」と思われていた方もいらつしやると思うのですが、僕は、仏教は「みんなのもの」だと受け止めていただけたらなと思つているんですよ。なので、この1年間のフリーパーの特集でも、僧侶ではなくて一般の方に登場していた

できました。仏教グッズを制作されているフェリシモおてらぶの内村彰さん、お寺の奥さまの早坂宏香さん、「仏女新聞」を発行している飯島可琳さん、皆さん僧侶ではないけど、それぞれの形で仏教を味わいながら、日常を生きていらつしやる方じゃないですか。仏教は、やろうと思つたら誰でも自分のものとして歩める。そのことを、ブツダニアでは、修行の体験を通して、さらには、その体験を日常に持ち帰つて実践すること、実感してもらえたらなと思つているんですよ。僧侶と在家は対岸にいる間柄じゃなくて、同じ場にいる一緒に歩いていける関係であつて、僧侶は、そのリーダーシップを取るぐらいの役割というか。ゴルフのプロとアマみたいな感じですよ。

若林 うんうん。

加賀 そこで、僕たちが仏教を伝えようと思つた時、自分は何を伝えたいのかをしっかりと確立させておかないといけない。なので、僧侶にとつてフリスタは「育つ」場でありたいなと思つてるんですよ。お仏事の場面で、自分にとつての仏教って、そんなに問われないじゃないですか。ご法事とかお葬式が滞りなく進めば、僧侶の最低限の役割は果たせるというか。威儀を正して

厳かにお経を唱えて、法話も決まつた話をすれば体裁としては保てちゃうので。振り返ると、僕はフリスタに関わる以前は、「なんとなく仏教」だったなと思つてます。仏教についての認識が「なんとなくこんな感じ」でもよかつた。だけどフリスタに関わつてから、そのところが正直、不安にもなつたんですよ。そういう時に、「拝め！座れ！学べ！」みたいに、ざっくりと、それこそ「なんとなく」教えるのではなくて、フリスタは面倒見よく育てられるような場であつたらなと思つているんです。具体的には、フリスタメンバーの僧侶が、仏教を学ぶゼミというか、学びの「サークル」も、これからやっていけたらなと思つてます。

池口 みんなで高め合つていけるといいですね！

加賀 はい、本当にそう思つています。というわけで、長々と話してきましたが、紙幅の都合で載せきれなかつた話を聞きたい方や、「フリスタに興味がある！」という方は、10月26日に10周年記念イベントとしまして、池口さん・若林さん・加賀の三人で改めてお話を予定ですので、ぜひ遊びに来てくださいな。池口さん、若林さん、ありがとうございました。

なんとなくでなく、
面倒見よく育てられる場
フリスタはそうありたい(加賀)

フリスタ10周年記念 EVENT info.

「フリースタイルな僧侶たちの10年」

10月26日(土) 15:00~17:00
三津寺 大阪市中央区心斎橋筋2-7-12

参加費：1,000円(お茶菓子代含む)
定員：40名
(申) <http://www.freemonk.net/events>
(問) info@freemonk.net

「フリースタイルな僧侶たち」発足10周年の記念イベントとして、歴代代表の池口・若林・加賀が鼎談。懐かしの誌面を振り返りながら、フリスタの紆余曲折から裏事情まで赤裸々に語ります！ 駆け出しの頃から応援してくださっていた往年のフリスタフリークや、フリスタに興味はあつたけどこれまでイベントに来ていなかった隠れファン、フリスタに関わつてみたいと思つていた僧侶・仏教ファンなど、誰でも参加可能です。フリスタの10年を知ることで、次の一歩が見えてくるかも。

フェリシモ×フリスタ コラボ商品開発レポート Vol.3

「フェリシモおてらぶ×フリスタのコラボグッズを製作する」というハッピーな企画が
始動しました。その激アツ企画会議の様を、ギュッとまとめてご報告！

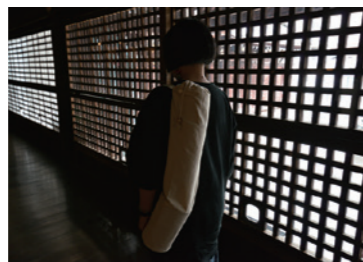
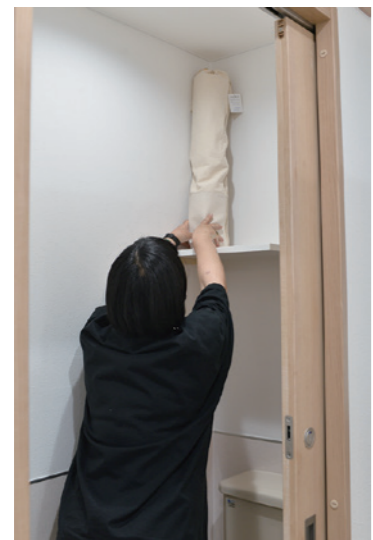


文／林中えみり

生活圏にお坊さんがたくさんいる環
境で育った影響でお坊さん好きに。で
も仏教の知識は人並み以下、勉強中。



FREEMONK × FELLISSIMO



トイレットペーパーは5ロール入ります。ご覧の通り、ヨガマットもシンデレラフィット。

今回の結論

うすさまトイレットペーパーパ
グのサンプルが完成！

完成までの進捗状況

50%

商品化への道はまだまだ続
く！ 次回もお楽しみに★

SHOHIN KAIHATSU



文／竹林真悟

北海道生まれ。浄土真宗本願寺派
僧侶。満誓寺副住職。参道でこんな
お宝を見つけたら、即購入したい。

お寺でよく見かけるけれど なんだろ“アレ” Vol.9

見たことあるある、でも、よくよく考えてみれば「なに?」「なぜ?」で
あふれているお寺。そんな「?」を、お坊さんならではの視点でご紹介！

好きよ あなた 仏道に ほらアプローチ♪

中学生の時、アプローチに
失敗していることに気づかず、
意中の相手に告白してしまっ
た。翌日、クラスの女子たちが
おしゃべりしながら時折チ
ラ見してくるような、さらし
者状態に陥った。最悪だった。
高校時代は「告白は男子が
するもの」という暗黙のルー
ルにうんざりしていた。告白
なんてしなくても、結果は分
かっていた。相変わらずアプ
ローチが下手だったから。
アプローチはとても重要だ。
例えば、恋愛アプローチの方
法はいろいろある。季節イベ
ントに乗ったったり、学祭な
どの誰もが浮つく特別な日の
勢いを借りたり。アプローチ
を仕掛けながら、相手が自分
をどう思っているのかを、恐
る恐る探っていく。

正直に、素直に、自分の心
のうちを表現すればいい。今
なら簡単にそう言えるけれど、
当時の自分にはとてつもなく
難しいものだった。相手の気
持ちは分からない。これが衆
生の根源的な苦しみの一つな
のだろう。
仏教へのアプローチにも似
たところがある。彼岸やお盆
の季節イベント、開祖の法要

という特別な日。他にも、た
またま近くに来たからと墓参
したり、自ら門を叩いたり。
最近では朱印を集めたり。し
かし、仏道をしばらく歩いた
者たちからは「私が仏にアプ
ローチしたのではない。仏か
ら私へのアプローチだけだっ
た」という証言を聞く。
よく見かけるアレ」のなか
に、その言葉を裏付ける仕掛
けがある。それは、仏・お寺
へのアプローチである「お寺
の参道」だ。屈指のアプロ
ーチ「門前参道」には、地域
の特産品を扱う土産物屋さん
が並んでいて、どこも賑わっ
ている。ところが、次のアプ
ローチ「境内」に入ると、先

ほどまでの喧騒とは打って変
わって、ひっそりと静まり返
る。境内には風が通り、木陰
もあつて気温も下がる。漂っ
ていた食べ物匂いが、いつ
しかお香や森の香りに変わる。
お堂に入ると薄暗く、感覚を
研ぎ澄まさないければ、そこ
におす仏の気配にすら気づけ
ない。これらのアプローチの
なかで、知らず知らず、すべ
ての感覚が動員されていく。
自らの感覚に心が向いてく
ると、雑踏を歩いてきた身体
の疲労に気づく。やがて、見
つめ続けてくる仏の眼差しに、
世事に転がされる自分を知ら
されるような気持ちになっ
てくる。
「嗚呼。少しジコチューだつ
たかも。思いやる気持ちが足
りていなかったかも」。自然
とそんな言葉が浮かぶ。なん
だか、すつきりしてくる。す
ると不思議。帰りの参道で、
「仏に呼ばれたから来たんだ
な」「今日ここに来ることに
なった」「今も仏が一緒か
も」なんて気持ちになる。仏
からの猛烈アプローチに気づ
いて始まる二人連れ。それが
仏道なのかもしれない。
道すがら、「この気持ち、
今ならあの人に伝えられるか
も」なんて思い至ったのなら、
あの人へのアプローチとして
土産物屋で「goodie」の購入
をお勧めしたい。



上／おばあちゃん原宿、巣鴨地蔵通り商店街(東京)。とげぬき地
蔵尊の名で親しまれる曹洞宗萬頂山高岩寺への参道筋商店街だ。
中／柴又帝釈天参道(東京)。映画「男はつらいよ」で有名。日蓮宗
経栄山題経寺への参道商店街。奥に二天門が見える。下／真言
宗豊山派総本山・長谷寺(はせでら/奈良)。本堂までの石段は、屋
根がつけられた登廊(のぼりろう)として有名。

SHINGO TAKEBAYASHI

NANDARO ARE

VOL.55

修行体験 ブツダニア

修行僧の街、ブツダニア。この街の住人は全て修行僧。修行と生活が共にあります。読経や瞑想、礼拝はもちろん、食事や散歩、世間話まで、六根（眼・耳・鼻・舌・身・意）で感じるものはすべて修行につながるのです。さあ、あなたもこの街で修行とは何かを体感してみませんか。



9.29 Sun
12:00 — 18:30

【会場】應典院（大阪市天王寺区下寺町1-1-27）

Osaka Metro 谷町線「谷町九丁目駅」3番出口、徒歩8分
Osaka Metro 堺筋線「日本橋駅」／近鉄線「日本橋駅」8番出口、徒歩7分

*イベントの詳細はウェブサイトにて
<https://www.freemonk.net/>

EVENT info.

これから開催される フリスタ主催イベント

分かち合いで生まれる 豊かな時間

「アラサー僧侶とゆる〜く話す会」

9月7日（土）14:30～17:00
京都・明覚寺



アラサーのお坊さん数名とゆる〜くお話をする会です。話のテーマは、あなたの話したいこと。普段の生活の中でモヤモヤしていることや、とにかく誰かに聞いてほしいことなど、何でも構いません。単純にお坊さんと話してみたいという方、お坊さんの生態や仏教に興味のある方、ただただゆったりと時間を過ごしたい方も歓迎です。お茶とお菓子をいただきながらお坊さんと一緒に考えてみませんか。お気軽にお立ち寄りください。

参加費：1,000円（フリスタサポーター800円）
定員：12名
住所：京都市下京区平野町783

※終了後、懇親会を予定しております

（申）<http://www.freemonk.net/events>
（問）info@freemonk.net

読みたい聞きたい話したい あなたの“法事”欲、補充します

「読んで聞いて置いてく法事」

9月28日（土）16:00～17:30
大阪・本願寺津村別院（北御堂）



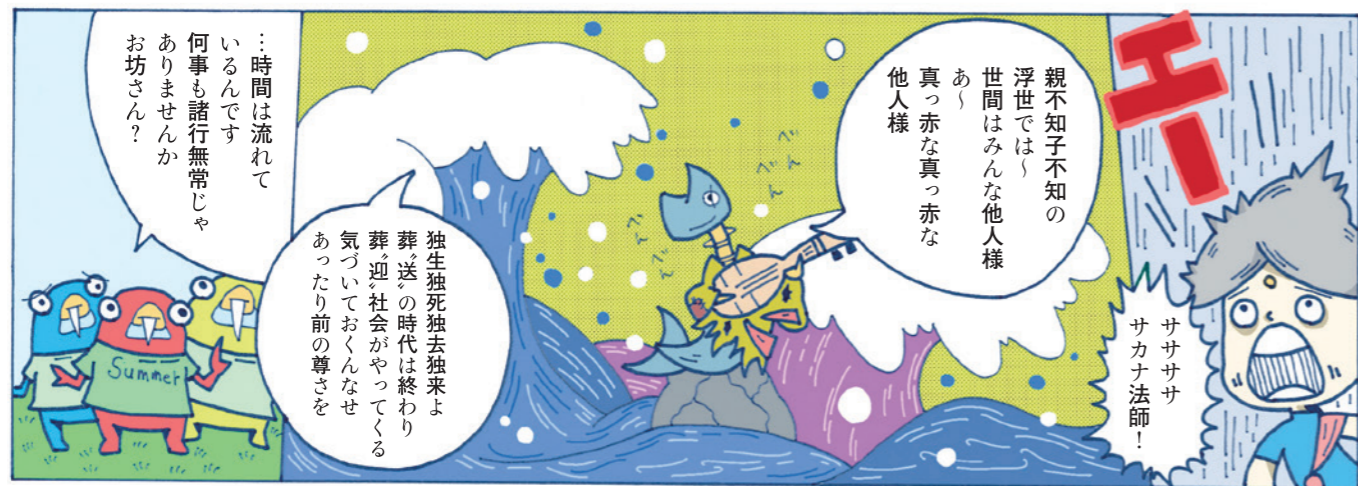
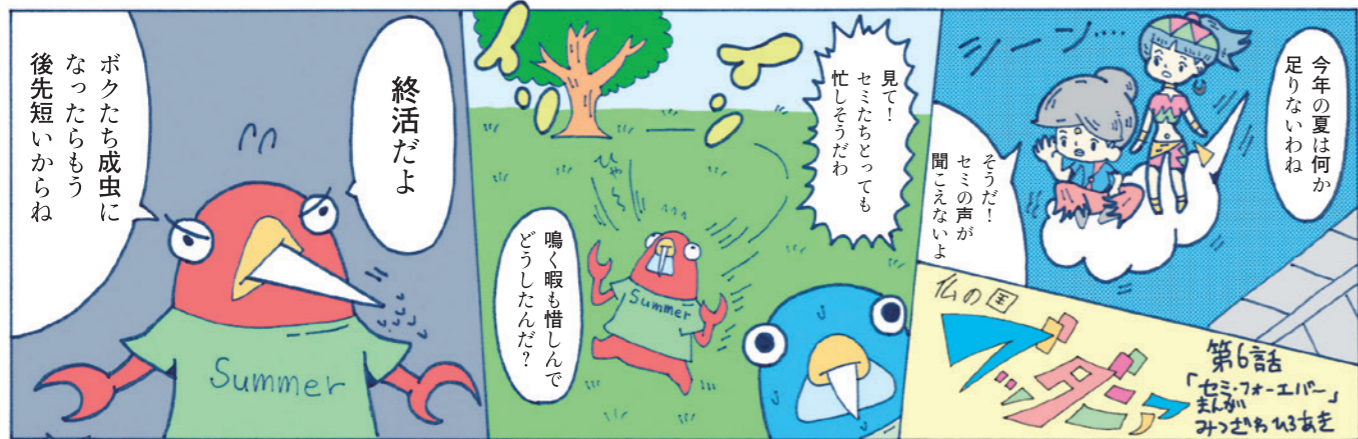
お参りしてくれるお坊さんは忙しそう、引き留めたい気持ちを我慢されたことはありませんか。「今日はもう少し長めのお経が聞きたかったのだけれど」「言え（癒え）ない悲しみこの気持ち、少しでもいいから軽くしたいのだけれど」「実家が少し離れているので法事をお願いしたいのだけれど」。そんな、あと少しの“法事”欲を補充します。一緒に読経と法話。悲しみやお悩みも置いていけます。お気軽にお運びください。

参加費：1,000円（フリスタサポーター800円）
*現地にてお支払いください

定員：15名
住所：大阪市中央区本町4-1-3
担当：竹林真悟（浄土真宗本願寺派僧侶）

お持ちであれば、お数珠をご持参ください（なくても可）／服装に決まりはありません／宗派は不問ですが、浄土真宗のお経をお唱えいたします

（申）<http://www.freemonk.net/events>
（問）info@freemonk.net



ご支援のお願い

フリースタイルな僧侶たちの活動を 応援して下さるサポーターを募集しています。

スクーターで通り過ぎる姿か、お葬式やご法事。僧侶を見かける機会はそれぐらいで、有名なお寺以外はなんだか入りにくい。僧侶としてこの現況を申し訳ないと思うし、もったいないとも思います。

なぜ苦しみは起こるのか。自分も他人も仕合せになるために、いかに生きればよいのか。2500年にわたり伝わってきた仏教のポテンシャルは確か、今を生きる支えになると私たちは信じています。

固定観念にとらわれず、フリースタイルにフリーマガジン・ウェブ・イベントを通して、軽やかに仏教と出会えるように、安らぎや気づきが得られるように、持てる力を尽くしてまいります。

私たちの取り組みに共感し、応援して下さるサポーターを募集しています。仏教を身近に、日常に。そして、あなたの生きる力に。仏教が生きる安らかな社会をご一緒につくっていきましょう。

サポーター特典

- 弊誌を毎月お送りいたします(年間4回)。
- 主催イベントにおいて、優待いたします。
- 法人サポーターの方は、誌面にお名前を掲載いたします。

ご支援くださる方は、下記サイトのフォームにご記入・お申し込みください。担当者より、振込先などについて折り返しご連絡を差し上げます。

<http://www.freemonk.net/contact/support>

会費振込先

三井住友銀行 / 園田支店 (422) / 普通 / 5092943
フリースタイルな僧侶たち / 代表 加賀俊裕

協賛年会費	個人=5,000円 法人=30,000円
-------	----------------------

お振り込みの際、あらかじめ下記のいずれかにご連絡くださいませ。

Tel. 050-5583-4330 E-mail. info@freemonk.net

協賛法人サポーターリスト

浄土宗▶安心院(八幡市) / 安楽寺(南丹市) / 延命寺(堺市堺区) / 吉祥寺(萩市) / 九品寺(京都市南区) / 教安寺(福津市) / 慶藏院(伊勢市) / 光照院(台東区) / 金剛寺(京都市東山区) / 西明寺(尼崎市) / 西楽寺(京都市伏見区) / 西林寺(大阪府泉南郡) / 浄栄寺(東近江市) / 正覚寺(青森市) / 正善寺(伊丹市) / 勝楽寺(町田市) / 真光寺(今治市) / 新善光寺(札幌市中央区) / 崇福寺(甲賀市) / 善願寺(甲賀市) / 善道寺(札幌市豊平区) / 臺鏡寺(枚方市) / 檀王法林寺(京都市左京区) / 潮音寺(東京都大島町) / 長壽院(台東区) / 梅窓院(港区) / 法岸寺(静岡市清水区) / 寶松院(港区) / 法善寺(大阪府中央区) / 妙慶院(広島市中区) / 無量光寺(鳥取市) / 湯川寺(函館市) / 龍岸寺(京都市下京区)

浄土宗西山禪林寺派▶光明院・田中医院(京都市中京区) / 宝泉寺(津島市)

浄土真宗本願寺派▶光栄寺(井原市) / 幸教寺(大阪府生野区) / 光照寺(大阪府東淀川区) / 光徳寺(みやま市) / 光明寺(奈良県吉野郡) / 西教寺(生駒市) / 西方寺(大和郡山市) / 西法寺(北九州市) / 浄元寺(尼崎市) / 正源寺(大津市) / 正宣寺(大阪府北区) / 浄満寺(大阪府西成区) / 信覚寺(福岡県朝倉郡) / 崇興寺(福山市) / 養法寺(金沢市)

真宗大谷派▶覚法寺(福岡県八女郡) / 称讃寺(新潟県長岡市) / 正蓮寺(伊豆の国市) / 超覚寺(広島市中区) / 宝皇寺(函館市)

浄土真宗東本願寺派▶緑泉寺(台東区)

天台宗▶圓融寺(目黒区) / 大圓寺(目黒区) / 正明寺(姫路市) / 本覺寺(横浜市鶴見区)

高野山真言宗▶弘法寺(和泉市) / 業師院(岸和田市)

真言宗豊山派▶寶積寺(松山市)

真言宗御室派▶三津寺(大阪府中央区)

真言宗須磨寺派▶須磨寺(神戸市須磨区)

臨濟宗妙心寺派▶円光寺(台東区) / 宜雲寺(江東区) / 勝林寺(豊島区) / 陽岳寺(江東区) / 龍雲寺(世田谷区)

臨濟宗建長寺派▶掃一寺(静岡県賀茂郡) / 東光禅寺(横浜市金沢区)

曹洞宗▶四天王寺(津市) / 瑞生寺(浜松市中区) / 南詢寺(守口市) / 鳳仙寺(宮城県亶理郡)

日蓮宗▶池上實相寺(大田区) / 法華寺(亀岡市) / 妙海寺(勝浦市) / 妙見寺(橋本市)

時宗▶正法寺(京都市東山区)

単立▶五百羅漢寺(目黒区) / 瑞聖寺(港区) / 法然院(京都市左京区)

企業・団体・店舗▶アールアンドダブルユー(京都市中京区) / アンカレッジ(港区) / 遠藤新兵衛商店(京都市下京区) / カウントワン(京都市中京区) / 京美仏像(京都市北区) / 京念珠ゼンヤ(京都市下京区) / 薫寿堂(神戸市) / 神戸数珠店(京都市下京区) / 作島(京都市下京区) / 茶坊えにし(台東区) / 寺院コム(京都市左京区) / 翠光堂飯急淡路駅前店(大阪府東淀川区) / 大正大学(豊島区) / 学校法人鎮西学園(熊本市中央区) / 豊田愛山堂(京都市東山区)

一般社団法人日本石材産業協会(千代田区) / はせがわ(文京区) / 浜屋(姫路市) / 福生(堺市西区) / Flucle(大阪府都島区) / 坊主BAR 緑(岐阜市)

*敬称略・五十音順

フリースタイルな僧侶たち Vol.55

2019年8月31日発行
発行人 加賀俊裕

発行所 フリースタイルな僧侶たち
〒542-0085
大阪府大阪市中央区心斎橋筋2-7-12
☎050-5583-4330

編集
若林唯人・光澤裕顕・飯村絵理子

デザイン
梅本龍青

企画協力
竹林真悟・飯野顕志・福山智昭・久松裕彦
稲田瑞規・河村英昌・水戸智舟・財津宏経

フリースタオンライン サークルを設立します！

全国の仏教ファンで“育て合う” 仏教コンテンツ

僧侶も、そうでない人も、仏教が好きなら、みんな仏教ファン。
そんなファン同士が立ち場や地域を超えて、ゆるーく集える場所があってもいいんじゃないか？
その思いを具現化するべく、11年目のフリースタはオンラインサークルの設立に向けて動き出します！
仏教に対する興味の入り口は世界観や芸術、音楽、哲学、体験など人それぞれ。
同じ興味を持った全国の仏教ファン同士がインターネット上で出会い、仏教談義で盛り上がり、
時には誰かが出した企画について、共感する人たちと一緒に実験的なプロジェクトを立ち上げる。
フリースタオンラインサークルでは、インターネット上のコミュニティを運営し、
そんな希望を持った仏教ファンの皆さまのお手伝いをしてまいります。

一緒にサークルの運営をしてくれる中心メンバーを探しています。僧侶に限らず、
全国の興味ある仏教ファンからのお問い合わせをお待ちしております。

お問い合わせ先 info@freemonk.net

START

来年度始め
運用スタート！
(予定)



心といのちの電話相談室

☎ 03-3436-6823

相談受付 毎週月曜日・金曜日 10:00～16:00（祝日、盆、年末年始は休業いたします）

あなたを支えたいと
願う人がいます。
つらいお気持ち
おはなしてください。

「心といのちの電話相談室」の特徴

- 研修を受けたお坊さん、
お寺の奥さんがお話を伺います
- 多彩なお相談に対応します
- 周囲の方もご相談ください

「心といのちの電話相談室」の約束

- 秘密は必ず守ります
- 勧誘はしません
- 無料でお受けします

「心といのちの電話相談室」事務局

〒105-0011 東京都港区芝公園4-7-4 公益財団法人 浄土宗ともいき財団 内
TEL.03-3436-3353 FAX.03-5472-4878 ホームページ <http://tomoiki.jp/>

詳しくは